

## 脳性麻痺の二次障害(人工股関節手術)について

平井 誠一

私は脳性麻痺です。脳性麻痺の二次障害についていわれ始めたのは20年前ぐらいからであろうか。当時高志リハビリテーション病院の先生と一緒に「脳性麻痺とポストポリオの二次障害」というテーマで何度か講演会を行ってきました。

それ以前は、歩ける脳性麻痺者はだんだんと歩けなくなり、高熱を出して1年後には寝たきりになるといわれていました。確かに、そういう人たちがいたなと思っていました。手術をしてもよくなることも巷でいわれてきました。

脳性麻痺にはいくつかの型があると言われています。その内のアテトーゼ型（アテトーゼとは体をよじらせる不随意の運動です。アテトーゼ型は脳性麻痺の小児の約20%にみられ、腕、脚、体幹の筋肉が不随意的にゆっくりと動きます。よじれるように動く場合や突然動く場合、断続的に動く場合などがあります）が二次障害になりやすいようです。二次障害とは、簡単にいえば「脳性マヒ者の二次障害は、変形性頸椎症や股関節変形症等といった症状として現れる。自覚症状としては、まず凝りを感じるようになり、続いて痺れと痛みの順番に現れ、最後に無感覚になってしまう」と書かれています。

私は17年前に頸椎の手術をしました。頸椎に8本のボルトで固定されています。手術前はだんだん歩くことでできなくなり、痛みが酷くて眠れなくなり、ほぼ寝たきりの状態になりました。手術後は電動車椅子で動けるようになり、一人でトイレやつながり歩きが少しできるようになりました。ただ、しびれは24時間、365日間あります。冬や梅雨や夏のエアコンは痛みなどを感じることもあります。（私が関わった方は、肺の機能が落ちてきて、手術をしなかったら人工呼吸器を付けるしかない状態になりましたが、手術を受けて今は電動車椅子で1人暮らししています。）

### \* 人工股関節手術について \*

頸椎の手術後、股関節のチェックは定期的に行ってきました。少し痛みを感じていたからです。右の股関節が少しずつ欠けてきていました。それが痛くて夜眠れなくなってきました。これも冬と梅雨が酷かったです。

手術前までは、40cmの段差を登ってお風呂には入れていました。もちろんヘルパーさんの介助はありました。ベッドからの移乗も出来ていましたが、お風呂での転倒もありました。

股関節の軟骨が減って骨と骨が擦れるようになり、CT検査では骨の中に穴が空いてきていました。手術をするかどうか考えていました。自分の中では、そんなに歩くことがないなら、手術をしなくてもよいのではと思っていました。

最初は薬物治療から始めましたが、効果を感じたのは始めの頃だけで、その後薬も効かなくなりました。そこで手術を選択しました。私が知っている方で脳性麻痺の方で股関節の手術をされた方が何人かおられますが、いい話は聞いていませんでした。

医師からは以前に脳性麻痺の方を手術されたという話をお聞きして、痛みもあったので決断しました。術後1ヶ月が経ちました。術前のジクジクした痛みは無くなりました。今は、移乗の時等の立つとき痛みが少しありますが、ぐっすり眠れています。ベッドからの移乗はできるようになってきました。2分ぐらいの立位はできるようになってきました。大便等は一人でできるようになってきました。お風呂はまだ安定していないので、デイサービスを利用しています。

今は、安定するまで3～6ヶ月かかるといわれるので、脱臼しないように気を付けて反転防止装具を付けて生活しています。退院の条件に訪問リハビリを受けることになり、訪問リハを始めました。

術後に出てきたのが、右足の筋緊張でした。ビクッビクッと右膝を曲げる現象に悩まされましたが、今はだいぶ無くなりました。病院のリハビリは歩行訓練が主でした。右足に体重を乗せて伸ばして歩く。術前は右足が左足に比べて1.5cm短かったのです。そのために、右足に体重をかけたり、バランスを取る感覚が違ってきて、自分の足でありながらも怖さがあり戸惑いながら恐る恐るやっていました。なかなか右足の踵をつけられなかったのです。人工関節で脱臼しやすい動きがあるので、それにも気を付けて動いています。

自主リハビリも、病院にいるときからしてきています。朝、起きた時にベッドの上で事前に足を動かしてから、車椅子に移乗するようにしています。

焦らずに、少しずつやっていきたいと思っています。もちろん、仕事もボチボチやって行きます。

最後に、入院中洗濯支援をしてくれた友人や職場の仲間の皆さん、そして同室の皆さん方にお礼申し上げます。さらに、ご支援頂いた皆様方に感謝申し上げます。